



西村交通部長から感謝状を受け取る栗市長。

交通死亡事故ゼロ、初の900日達成！

感謝状受贈式

4月22日(月)、「交通死亡事故ゼロ900日達成」感謝状受贈式が市役所で行われました。市内では、令和3年11月1日以降、交通死亡事故が発生しておらず、4月19日(金)をもって交通死亡事故ゼロ900日を達成しました。これまでの最長記録は693日で、記録を大きく更新しました。

受贈式では、石川県警察の西村和市交通部長から感謝状、石川県交通安全協会の寺瀬秀昭専務理事から記念品の盾が栗市長へ手渡されました。

椿愛好会も市花木ツバキも50周年

市椿愛好会50周年記念植樹

市椿愛好会（市文化協会所属）が発足50周年を迎えたことを記念し、4月23日(火)にあらみや公園でツバキの植樹が行われました。今回選ばれた品種は、椿愛好会15周年の際に命名された「宗円」「庵の露」と「玉の浦」の3種類。椿愛好会の宮崎昭男会長や「庵の露」を提供した佐久間由孝氏、栗市長らが苗木に土をかけました。宮崎会長は「市花木にツバキが選定され、ツバキの花やデザインが街中に浸透していることを誇りに思う。今後も普及に努めていく」と話しました。



あらみや公園の南東側に3つの苗木が植えられました。



軽妙な語り口で講演を行う金沢大学の青木准教授。

地震はひとつじゃない

野々市の地震災害を考えよう

4月24日(水)に女性センターで、「野々市の地震災害について考えよう」と題した講演会が開かれました。過去の大規模地震の事例を踏まえ、なぜ地震が起きたのかという根本的な内容にも触れました。金沢平野を貫く「森本・富樫断層帯」は、今後30年間の地震発生確率が最大8%（平成25年調査）と、主な活断層の中では最も高いグループに属しています。青木賢人氏は「今この瞬間にも地震が起らないとは限らない。備えはすぐにすべき」と警鐘を鳴らしました。

掘り出し物がたくさん！

親子リユースフリマ

親子でリユース意識を向上させることを目的とした「親子リユースフリマ」（市消費生活センター主催）が5月11日(土)に、にぎわいの里のいちカミーノで開かれました。このフリマは今回で2回目の開催で、20組の親子が出店し約120人が来場しました。出店した親子は、家にある不要になったおもちゃや衣類を自分たちで値段を決めて販売しました。会場では、小さな店員さんが大きな声で「いらっしゃいませ！」と呼び込みするなど賑わいを見せっていました。



会場内では、子ども服の寄附も受け付けていました。

まちの話題 FOCUS

皆さんの周りの楽しい話題やイベントなどの情報を教えてください。
市民協働課（☎ 227-6056）

朝のまちに笑顔がキラリ！

愛と和ののいち5万人あいさつ運動

この運動は、「青少年健全育成の推進、地域の連帯感の醸成、市民の実践力の向上」を目的に、「ののいちっ子を育てる」市民会議と市保護司会が中心となり昭和56年から継続して実施しています。今年は5月10日(金)から市内一斉にスタートしました。初日のこの日、小中学校の玄関や通学路などで約170人の参加者があいさつを呼びかけ、登校する子どもたちには元気に「おはようございます！」と返していました。野々市小学校では、児童によるあいさつ運動が行われ、登校してきた友達と目を合わせ思わず笑顔がこぼれる一幕も。初夏の香りがし始めた市内に和気あいあいとした光景が広がりました。



みんな仲良く登校♪



おはようございます！



あいさつで笑顔が溢れます

あいさつ運動実施期間

第1期 5月10日(金)～16日(木)

第2期 7月1日(月)～7日(日)

第3期 8月30日(金)～9月5日(木)

第4期 9月24日(火)～30日(月)

第5期 11月12日(火)～18日(木)

スポーツで能登を応援！

能登地区学童野球交流試合

4月7日(日)、市民野球場にて能登地区的学童野球チームを招いた交流試合が開催されました。この交流試合は、能登半島地震で被災し十分に練習や試合ができない能登の球児に野球を楽しむ機会を提供するため、市スポーツ少年団の富陽学童野球クラブが企画したものです。これまでに交流のあった能登地区の3チームを招いて実施されました。参加した児童は目いっぱい野球を楽しむとともに、野球を通じて仲間との友情を深めました。



交流試合では4チーム、約80人が汗を流しました。



県内クリエイターの作品が並ぶ「第11回金沢ADC展」も同時開催。

アートディレクションの最前線に触れる

日本のアートディレクション展2023

4月18日(木)～5月14日(火)に、学びの杜ののいちカレードで日本のアートディレクション展が開催されました。アートディレクションとは、広告や商品パッケージ、ロゴマーク、Webサイト、映像、環境・空間などのビジュアル面の総合演出のこと。今回は2022年6月～2023年5月に発表・使用・掲載された6,000点の応募作から選出された作品が並びました。来場者は「これどこかで見たことある」「この作品が好き！」と、多彩な作品に目を奪われていました。